

第 48 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2023 年 8 月 8 日（火）正午から午後 0 時 50 分まで

場所：愛知県庁本庁舎 2 階 講堂

1 挨拶

大村知事：

本日は第 48 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議に御出席いただき感謝申し上げます。大変暑い中であり、また日程調整をした結果、ちょうど正午からの開始となり、大変恐縮するところである。

5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症に移行してから、初めての開催となる。

5 類感染症移行後は、感染者の状況については週 1 回の定点把握を行っている。従来の全数調査から愛知県内 195 の定点医療機関から 1 週間分を定点把握するものであり、これは季節性インフルエンザと同様の仕組みである。本県の直近である 7 月 24 日から 30 日までの本年第 30 週における状況について、県内の定点医療機関からの報告では、総報告数は 4,059 人であり、定点医療機関あたりの報告数は 20.82 人となり、5 類感染症移行後、初めて 20 人を超えたところである。定点あたりの報告数、入院患者数とも増加傾向であり、7 月半ば以降、第 9 波に入ったと言わざるを得ず、大変厳しい状況となっている。これを全数調査の時と同じ数値に直すと 5,120 人であり、4 月の第 1 週が 330 人ということであったため、実に約 16 倍の感染者が生じている。昨年 11 月半ばの第 8 波に突入した頃と同程度の値となっている。

このような中、夏休みに入り、これからお盆の時期を迎え、旅行や帰省、イベントへの参加など、人流が増加することが見込まれるため、7 月 20 日付けで県民の皆様へメッセージを发出了したが、本日新たに感染拡大の抑制に向けて、県民の皆様へメッセージを發出させていただく。また、7 月 31 日には、愛知・岐阜・三重で東海 3 県知事テレビ会議を行い、共同メッセージを發出させていただいた。なお、この会議において、感染状況を示す全国統一の基準の設定について、全国知事会を通じて、国へ要望を行うこととし、先週要望したところである。

5 類感染症移行後は、日常における感染防止対策については、各自の判断に委ねられることが基本となったが、高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば、重症化のリスクも高まる。県民・事業者の皆様には、引き続き、場面に応じ

て、換気や手洗い、マスクの効果的な場面での着用等の基本的な感染防止対策をお願いする。

今後もオール愛知一丸となって、安心な日常生活を取り戻し、社会経済活動を回していくことができるよう、しっかりと取組を進めるため、皆様の御理解と御協力を何卒お願いする。

2 議題(1)新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

まず、議題(1)の新型コロナウイルス感染症対策について、私から資料に基づき概略等を説明させていただく。その後、御出席いただいた有識者の皆様から御意見を伺うためよろしくお願いする。

始めに、資料の「感染拡大の抑制に向け県民の皆様へのメッセージ」についてである。現在の厳しい感染状況に基づきこのメッセージを本日付けで発出させていただきたい。参考として、夏休みに入り、これからお盆の時期を迎え、旅行や帰省、イベントへの参加など、人流が増加することが見込まれ、改めて基本的な感染対策をお願いするため7月20日付けで県民の皆様へメッセージを発出させていただき、7月31日には、愛知・岐阜・三重で東海3県知事テレビ会議を開催し、同趣旨の内容の共同メッセージを発出させていただいた。それに加えて、本日、本部会議を開催させていただいているため、県民・事業者の皆様には、夏休み、お盆期間中において、熱中症に気をつけながら基本的な感染防止対策をお願いするメッセージを発出することとしたい。

次に、参考資料1の「新型コロナウイルス感染者の状況について」である。先週木曜日に発表した本年第30週における状況については、県内の定点医療機関あたりの報告数は20.82人であり、昨年度11月半ばの数値とほぼ同じということである。昨年11月1日から第8波に入ったということで、ちょうどその状況に数値的には酷似している。定点あたり報告数は豊川保健所管内が最も多いところである。年代別では、10歳未満が最も多く、次に10歳代が多くなっている。そして、裏面の2ページ目が入院状況であるが、確保病床、コロナの稼働病床1,035床に対し入院患者数が603人であり、58.3%の病床使用率となっている。これが80%に達した場合、フェーズⅡとして病床の増床をお願いするところであり、現状は、その域に達しないまでも増加傾向にある。

47都道府県別の報告数としては、本県は全体のうち11番目であり、東海3県でみても三重県が15番目、岐阜県が19番目と全国的に高い水準であるため、先般、東海3県知事テレビ会議を開き、メッセージを発出させていただいたところである。

次に、参考資料2の「5類感染症移行後の外来対応医療機関について」である。発熱患者に対応いただく医療機関の登録を働きかけており、5類移行前の2,272機関から168機関増加し、2,440機関となっている

次に、参考資料3の「8月のお盆を中心とした時期における発熱患者等への医療提供体制等について」である。本日、本部会議終了後、速やかに発表させていただきたいと考えている。毎年、お盆前、正月前、ゴールデンウィーク前等の連休の前に、検査体制や相談窓口体制等を整備させていただいている。8月のお盆を中心とした時期においても、医師会、病院協会を始め、医療関係者の皆様の御協力により、発熱症状のある方等が診療・検査を受けられる体制を整えている。お住いの地域の休日夜間診療所等において診療を受けることができるものである。

次に、参考資料4の「愛知県のワクチン接種の状況」である。令和5年春開始接種について、7月30日時点で、65歳以上の接種回数は846,862回で、高齢者人口に対する接種率は44.65%となっている。

また、秋開始接種については、9月20日から開始することと相成った。各市町村の皆様におかれては、引き続き、接種券の段取り等についてよろしくお願ひする。

続いて、参考資料5の「ヘルパンギーナの警報発令」についてである。コロナとは異なるが、県内の182か所の定点として発生動向調査を実施しており、直近の7月24日から7月30日までの1週間の定点医療機関当たりの患者数は3.27と下がってきてはいるが、引き続き、うがいと手洗い等による予防を心掛け感染防止対策をお願ひする。

本県としては、市町村・医師会等関係団体の皆様と連携の上、医療のひっ迫を防ぎ、県民の皆様継続的に必要な医療が提供できるよう、県内の医療提供体制の確保に万全を期していく。

(有識者・関係団体・政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

現在の名古屋医療センターでの新型コロナウイルス感染症の診療状況について報告する。

本日時点で、確保病床27床のうち、23名が入院している。一方、院内感染により、一般病棟で6名の方を管理しており、合計で29名の方が入院している。入院患者の平均年齢は85歳である。重症者が2名いるが、高濃度酸素の投与を必要とする広範囲の肺炎がある。中等症が1名で、残りの方は軽症で、多くの方が心不全や悪性腫瘍等の基礎疾患を持っている。また、転倒による骨折など、他

の症状で受診され、たまたま感染が分かり、確保病床に入院されるという方々が軽症患者の多くを占めている。

注意していただきたいのは、典型的なコロナ肺炎を呈し、重症化する患者もまだまだ見られる。このような症例は、これまで1度もワクチン接種をしておらず、感染経験のない方が多く、その様な場合は重症化するリスクがあるため、引き続き、十分な注意をお願いしたい。

また、未だ病院でのクラスター発生は常に警戒しており、気を緩められない状況にある。

入院当初に酸素投与を必要とする方が比較的多く、病床確保はしばらく厳しい状況が続くと思うが、我々としては頑張っって対応していきたい。

なお、合併症や全身状態が許されれば、5日間の隔離期間に関わらず、自宅や施設での経過観察をお願いしているため、御協力をよろしく願います。

高齢者の感染が基礎疾患の悪化につながる。3県の知事メッセージにあるとおり、高齢者に配慮した、マスクや手洗い等の感染対策を続けていただき、症状があるときは接触しないといったことを引き続き、続けていただきたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県医師会 柵木会長：

第9波に入ったのは間違いないと思っている。お盆の時期は多くのいわゆる町の開業医が休診となるため、この間の急患にはしっかりと対応したい。

愛知県では外来対応医療機関が2,400を超えるということで、特にこの休日・祝日には休日診療所に執務する人員を余分に確保して、繁忙時に対応する体制を作るよう、各休日診療所には依頼をしている。中でも、お盆に重なる休日には、しっかりと予測して、十分な準備と体制を整えたい。

最大の関心事は、第9波はどれぐらいの規模で、いつ頃がピークになるかということである。これを予測することはなかなか難しいが、私は特にオミクロン株となった第6波以降の沖縄での感染状況に注目をしていた。

沖縄では第9波が全国に先駆け6月ぐらいから拡大し始めて、定点把握における数値が50近くまでいったが、その後は下がってきて、既にピークが終わっている状況である。

献血時の血液を用いた既往感染抗体である抗N抗体の保有率について、今年の5月の時点で、全国が43%に対して、沖縄では63%であった。これは、かな

りの人がかかっていたということであり、それも要因となり、沖縄は、第9波は比較的波の小さかった第8波と同規模であった。なお、愛知県の抗体保有率は45%であり、全国平均と近い割合であった。

今後、愛知県の感染状況がどうなるかについて、抗体保有率を考えると、沖縄以上には拡大すると思うが、第8波は超えないと考えている。お盆に人流が増えることを考えると、お盆過ぎから8月末ぐらいがピークとなると予想している。

確保病床の使用率が58%ということで、各医療機関に話を聞くと、名古屋市内を中心として、各病院も相当ひっ迫してきているとのことである。必要があれば、フェーズⅡの段階で、何らかの手を打つ必要があると思うが、重症者が現在18名であり、そこまで多くないため、これが病床のひっ迫を和らげているのではないかと感じている。

いずれにしても、この3年間続けてきた、密を避けることや、手洗いなど、日常生活の中での感染予防対策や生活習慣を、今後ともしっかりと続けていく必要がある。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県病院協会 伊藤会長：

既にお話をされたように第9波ということは間違いない。定点報告では6月末に9.16であったものが、7月末には20.82ということで、大変感染が広がっているということは確認している。

私どもの発熱外来での話になるが、発熱があった方の陽性率が40%を超えていることから、まだまだ感染が拡大する要素が非常に高いと思う。同様に入院に関しても、院内クラスターの発生が散発をしている。また、病院だけでなく、老人の介護施設等でのクラスターが散発していることから、今、感染の主流と言われているEG.5.1は、ウイルス自体が免疫をすり抜けるのではないかとということと、肺炎症例がぼつぼつと出てきていることから考えて、感染をしっかりとコントロールしていきたい。

病院の医療としては、救急搬送のひっ迫は続いているが、特に7月末には熱中症の搬送例が昨年に比べて2倍を超えていた。ここに過去のような感染の拡大があると、救急医療の体制が崩壊するリスクもある。何とか対応していきたい。

感染拡大を止めるためには、ワクチンをしっかりと打っていただくことが必要である。もう一つは、すべての世代で感染予防として、症状がある方に関して

は、徹底的に自粛をしていただくような要請をしていくことが必要だと思う。

それから5類への移行後、入院調整が各医療機関に任されているが、これだけ拡大してくると、入院調整の難しい事例も出てくる。今後の入院患者の扱いについては、何らかの対処をお願いしたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

日頃、医療体制の維持に御尽力いただいている、医療従事者、行政機関の皆様
に感謝を申し上げます。

5類移行後3か月が経ち、ここへ来て足元での感染拡大が懸念されている。夏の行事や移動が頻繁になる時期を前に、県民の皆様
に注意喚起を発信することは重要なことだ
と思う。

一方で、しっかりと経済活動を回して、本格的な回復へと歩みを進めていくことも重要である。中心部の小売店やサービス業などの客足は戻ってきており、製造業も半導体不足の影響が緩和されたことで、生産活動が活発化をして、管内の下請中小企業の受注も回復しつつある。

しかし、円安、原材料高、エネルギー価格の高騰、人手不足は続いており、楽観視できない状況である。特に原材料高、光熱費の上昇分を適切に価格転嫁ができていない事業者は、業績回復も鈍い。また、コロナ禍でのゼロゼロ融資の返済も本格的に始まり、資金繰りに窮した体力の弱い小規模企業の廃業が増えている。商工会議所の会員も倒産或いは廃業で退会される方が増加傾向であり、引き続き、厳しい状況が続いている。

中小、小規模事業者に対して、引き続き、きめ細やかな支援をお願いしたい。

大村知事：

引き続き、中小企業対策をよろしく願います。

中部経済連合会 杉本総務・会員サービス部長：

始めに、医療に関わる皆様に対し、日頃から感謝申し上げます。

説明いただいたデータを見ると、感染者数は7月に入ってから倍近くの数値になっている。5類になってから、各種イベントへの参加、中部圏を行き来する交流会や懇談会が開催され始めたことも影響しているのではと思う。しかし、W

e bばかりの活用であった時から、人が集まって会合等を行うようになり、会員様からは、やはり臨場感があるという意見も出ているため、感染に注意しながら継続してやっていければと思う。

次に地域の景況だが、横ばいの部分もあるが、生産や個人消費も緩やかに持ち直してきているので、先行きは以前に比べて明るくなってきていると思う。

今週末から多くの方々がお盆期間に入ると思うが、場面に応じた感染対策を継続してやっていき、コロナだけでなく、様々な感染防止対策を実行していきたいと考えている。

最後に行政機関の皆様と医療関係者の皆様には、感染状況等、適時適切な情報提供を今後ともよろしく願います。

大村知事

引き続きよろしく願います。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

5類移行後の医療対策、感染対策に尽力いただいた関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。なかなかコロナの終息に至らず、現状は第9波だということを知り、改めて、基本に立ち返り、慎重な行動が必要だと認識をした。

コロナ禍になり3年あまりの間に、テレワークをはじめ、仕事のやり方そのものが大きく変化をしてきたと考える。こうしたやり方は、感染対策と経済対策を両立する仕組み、環境が少しずつ整備されていると思う。経営者協会は、関係各所と連携しつつ、こうした仕事のやり方を定着できるよう取り組んでいきたいと考えている。

行政からも引き続き御指導をよろしく願いたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 可知会長：

日頃より、コロナ対応を行う医療従事者の方々、愛知県職員の方々に感謝を申し上げたい。

5類への移行や愛知県の経済政策もあって、運送やサービス業など、いわゆるコロナ禍で厳しかった業界が急回復している一方で、連合関連の組織からは、職場で感染者が急増しており、「為す術がない」や、「報告義務も無く対策も無い」や、「クラスター状態になっている」等の声と合わせ、対

応方法を大変苦慮している声が多いという事実があることをお伝えしておきたい。

一方で、当面は基本的な感染防止対策を講じていくしかないというように考えており、本日のメッセージが大変重要であると考えている。

また、一般の方でワクチン接種を希望する方が多いと認識しており、今後さらに拡大するようであれば、希望するすべての方の接種について、御対応いただければありがたいと思う。

連合愛知としても、組織内に対して、引き続き感染防止に向けた注意喚起や、基本的な感染防止対策等を周知していきたいと思う。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県市長会 中川事務局長：

県内の各市では夏休みに入り、夏祭りなどの各種行事が行われており、数年ぶりの開催ということで、多くの人出で賑わっている状況である。

一方、事故や熱中症と共に、この新型コロナウイルスの感染症対策は重要なものなので、換気やマスクの着用など場面に応じたメリハリのある対策の強化について、十分に注意喚起を図っていくとともに、ワクチンの接種についても周知、対応に努めていくので、それぞれ今後の対応の動向など、県からの情報提供を引き続きよろしく願います。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県町村会 野村事務局長：

町村会においても、本日付けの県民向けのメッセージにあるような基本的な感染防止対策等を取っていただくよう周知をしていく。

また、ワクチン接種についても、春開始接種については間もなく終わるが、来月から秋開始接種も始まるということで、積極的にワクチン接種していただけるようお願いしてまいりたい。

今後とも県には、情報提供等を引き続きよろしく願います。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

名古屋市保健所 医監：

名古屋市では、7月第1週に定点12を超えたあたりから、警戒感を持って市内の感染状況の注視に努めている。

毎週水曜日に、名古屋市Webサイトに市内の感染状況を更新しているが、市内陽性者数の増加とともに、現在、受診・相談センターへの相談件数、入院患者数、救急搬送困難数のいずれも増加傾向である。

市内の病院では随時クラスターが散発しており、8月に入り、入院も厳しくなりつつある。7月中旬にアンケート調査を実施した結果、全ての医療機関での受け入れはまだ難しい状況であり、一層の働きかけが必要な状況であると思っている。

依然として、入院の必要な方は、先ほど長谷川部会長からも話があったように、圧倒的に高齢者の方が多く、今後、高齢者施設の医療提供体制、病院と在宅医療の連携について、今一度、検討が必要と考えられる。

知事におかれては、これまでも適切なメッセージの発出等、御支援いただき感謝申し上げます。名古屋市としても、しっかり連携するのでよろしく願います。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

豊橋市保健所長：

他の地域と同じような状況で報告者数も増加をしており、市役所内の職員の感染者数は増えてきている状況である。

市内病院に状況を確認すると、重症者はいないものの、一定の患者が入院されている状況であるが、保健所への問い合わせ等もそれほどあるわけではなく、医療機関で対応していただいている状況かと考えている。

市としては、市民に対して換気と基本的な感染対策を引き続きお願いしていく。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

岡崎市保健所長：

岡崎市においても県下の状況と大きな違いはないと感じている。

直近の定点の患者数が約 13 ということで、数自体は問題ではなく、7月初めの頃と比べると2倍なので、やはり岡崎市の中においても感染は広がっている状況かと思う。

管内の入院医療機関については、7月末のデータであるが、現在、確保病床の約半分が埋まっている状態であると聞いており、これも大体県下の状況と大きな差がないと思う。

ただ、実際に院長先生や担当者の話を聞いてみると、軽症者が多いのは間違いないが、また、岡崎の基幹病院の先生が仰るのは、夏休みに入り子供の入院が多い状況であるが、軽症であり比較的短期で退院されるため、病床の負荷に大きく影響してこないことから何とか回っている状態であるとのことであった。

また、先ほど長谷川先生も仰ったが、重症化する方はやはりワクチンの接種回数がない、もしくは少ないということが岡崎市の管内でも同様の報告がされている。ワクチンを今まで接種されてない方はワクチンを打たないと決めている方が多いのかもしれないが、ワクチン接種回数が少ない方は重症化しやすいという事実だけはメッセージとして発信して、接種回数が少ない方には一層のワクチン接種をお願いしていくことが大きな要素になると考えている。

行政関係の話になるが、現在、県で入院調整を一本化していただき、現場は非常に助かっている。緊急包括支援交付金の関係もあり、現状、このやり方は、9月末までとされているが、現場としては今後も県で一本化していただけると行政的に非常に助かるため、国の動向で左右されることだと思うが、引き続きお願いさせていただく。

大村知事：

仰るとおり、9月末までで切れる施策が他にもいくつかあり、それは今の状況からすると如何なものかとか、10月以降、そういった措置を延長するなら早めに発表いただかないといけないということを、全国知事会の方で意見集約をして、強く国の方には話をさせていただいているため、その点は引き続きしっかりと取り組んでいければと思う。また御相談をさせていただく。

一宮市保健所長：

一宮市の定点の報告数は、5月8日からの第19週の2.58から始まり、6月26日の26週で12.17と、10を超え、直近の7月24日からの第30週で23.42となっている。

昨年の第8波の12月26日からの第52週の時の感染者数を定点に換算すると

43.67 となり、その時のほぼ半分まで来ていると認識している。ちなみに 11 月 21 日からの第 47 週を定点に換算すると 22.58 件となり、その時と同じような状況である。

市内の入院状況について、大雄会病院をはじめとするコロナ対応病床 83 床に対し、8 月 3 日での入院状況は、56 人入院しているので、67.4%の病床利用率になる。重症患者は 4 名という報告を受けているが、コロナ対応病床以外に、いわゆるリハビリテーション病院等の後方病院へ急性期病棟から移って 4 名入院されており、実際には 60 名入院されているという状況である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

豊田市保健所長：

本市でも 5 類移行以来、感染者が徐々に増加し、特に 7 月の中旬以降第 28 週で先週比 1.52 倍、第 29 週で、1.87 倍と急に感染拡大傾向になった。7 月 24 日から 30 日の第 30 週では、先週比 1.04 倍、定点あたり 29.22 と現在は高い値で横ばいになっている。

それに伴い、外来患者数や入院患者数も増加しているが、地域の医療機関の努力により、今のところ市内で大きな問題は起きていない。しかし今後、夏休みやお盆休み等の影響が心配されるため、市民への適正受診の呼びかけや保健所の相談体制の強化、お盆休みの診療体制の確保等医療機関の負担軽減策を進めている。

また、ヘルパンギーナ等のその他の定点把握の感染症は減少傾向だが、インフルエンザは増えたり減ったりしており停滞している。

ワクチンに関しては、まだ十分に情報が出てない部分もあるが、秋開始接種の円滑な実施に向け、地域の医師会、医療機関と連携して準備を始めている。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

夏休みに入り、これからお盆の時期を迎えるが、県民・事業者の皆様には、場面に応じて、換気や手洗い、マスクの効果的な場面での着用等の基本的な感染防止対策をとっていただくとともに、ワクチン接種についての御検討をお願い申し上げます。

今後もオール愛知一丸となって、安心な日常生活を取り戻し、社会経済活動を回していくことができるよう、しっかりと取り組んでいくので、皆様の御理解と御協力をお願いする。

では、冒頭で説明したとおり、8月8日本日付けで感染拡大の抑制に向けた県民の皆様へのメッセージを発出させていただく。また、お盆期間中の医療提供体制についてもこの後発表させていただく。

そして、先ほども話題に上ったが、10月以降の対応については、国の方に早くその方向性を作ってもらえるよう強く申し入れを行っていく。現状が第9波であるということは、本日医療関係の先生方からもお話が出ており、現下の状況を踏まえ9月末でコロナ対策の手仕舞いをするのは違うだろう。やはり、感染状況が収まるまでは、警戒をして対策を講じる必要があると思われる。コロナ対策は今後も続いていくものであるため、引き続きよろしくお願い申し上げます。